



August 2017

Newsletter

第 21 号

理工学系技術部広報誌

平成 29 年 8 月 22 日発行

平成 29 年度学生向け技術・安全講習会について

技術部研修委員会では、2014 年度より、学生への教育指導にも目を向けて、「学生向け技術安全講習会」として各教育支援グループ毎に協力して行っています。

今回も、事務方・教授会の協力を得て、学生支援係および教授会を伝に学生に呼びかけてもらった結果、それぞれ多数の出席がありました。

ここでは、機器分析部門担当および情報電気部門担当の講習会について各担当者より報告いたします。なお、機械センター部門では 8 月 30 日(水)(予備日:9 月 6 日)に「初心者向けの機械加工講習」を実施予定です。講習会の資料は下記に掲載しています。(閲覧学内限定)

<http://www.tsk.st.gunma-u.ac.jp/~kensyu/kosyu2017.htm>

(文責：横尾)

1) 機器分析部門による講習

機器分析部門では、4 月 26 日(水) 14:20~16:00 大講義室にて「化学物質の安全・安心取扱の初歩としての化学物質のリスク評価と廃液集荷に関する講習」を実施した。今年で 4 回目となり今回も好評を得た廃液処理を依頼している業者を講師に迎え、三部構成で行った。第一部の「化学物質のリスク評価」では 1. 大学における化学物質管理 2. リスク評価とは 3. 健康障害防止のためリスク低減の道具として理工学部仕様に開発した【化学物質のリスク評価システム】の活用法について説明し、第二部では、廃液に関する適正な取扱い方、貯留分類、集荷当日の搬入方法等について説明を行った。第三部では、株式会社ミヤマに各種廃液の処理方法、混合危険物による事故事例の紹介をして戴いた。受講者は、学部 3・4 年生 92 名、大学院生 47 名、教職員 2 名の総勢 141 名と昨年の 180 名と比べるとやや少なかったが、盛況であった。受講者からは有益な情報を得ることができたと概ね

好評であった。今後も内容をより充実させ続行する予定であるので、研究室に新しく所属になる新 4 年生には是非受講戴きたい。

この場をお借りして、研究室内の学生へのアナウンス等ご協力を戴きました教員の方々、事務系職員、技術職員の方々のご支援とご協力に感謝申し上げます。今後も学生の安全で安心な研究活動の一助となる様、機器分析部門技術職員一同日々研鑽し、この講習会の開催に向け、努める所存です。今後とも皆様のご支援・ご協力を賜ります様お願い申し上げます。(文責：藤生)

2) 情報電気部門による講習

情報電気部門では、6 月 28 日(水) 14:20~15:50 電気特別実験棟 201 室にて「ハンダ付け技術講習」を実施した。

ハンダ付けとは、融点の低い金属のハンダを使用し、主に金属同士を接合させ手軽に強い結合強度と電気伝導性を得るものである。しかし、技術不足による不良が思わぬ災害を招くこともある。そこで、確実なハンダ付け技術の習得を目的に、理工学部の学生に対しハンダ付け技術の解説及び実習を行った。定員(20 名)を上回る応募があり、7 月 5 日にも追加で実施した。参加者は、学部生 18 名、大学院生 7 名の計 25 名であった。講習はまずハンダ付けに関する講義を行い、その後に線の付け方や電子回路の作製(キャンドル LED 点灯回路)を行った。講習会の最後にアンケートを行ったが、受講者からはハンダ付けのコツがわかり、今後の研究や就職に役立つと好評であった。

この場をお借りして、学生への周知等で受講者募集にご協力頂いた教職員の方々に厚く御礼を申し上げます。

(文責：池田)



機器分析部門による講習会の様子



情報電気部門による講習会の様子

桐生事業場における水銀使用製品等の回収報告

桐生事業場の水銀製品等の回収に至った経緯と回収日等の報告を行う。

前回の大学等環境安全協議会技術分科会において主催者企画プログラム「水銀に関する水俣条約採択後の水銀系廃棄物の処理」の講演に深く感銘し、本学でも始めなければと考へた。時を同じくしてエアコン入れ替え工事が行われたことで、隠れていた水銀温度計が発見されるなど、いくつかの情報を耳にした。

そこでまず、12月の安全衛生委員会で議題に載せたところ、すぐに使用状況を調査するとの決定を受け、2月末締め切りのアンケートを実施した。ちょうど卒業研究の時期とも重なり、結果締め切り以降の追加も増えたが、反面、予算を確保するには良い時期でもあった。このアンケートを元に業者より、4月中旬見積書をもらい、予算申請を行い、6月21日の回収に至った。6月初旬に回収

の案内を出すと同時に毎日のように、追加の連絡が入った。予め業者より、区分け表を提出してもらい、回収日当日は、14の項目に区分けし、それぞれの回収箱毎には14名の安全衛生委員が受付を分担し、種別の確認、数量チェック後、各研究室が持参したファイルを回収して終了した。業者引取りは7月20日に実施した。

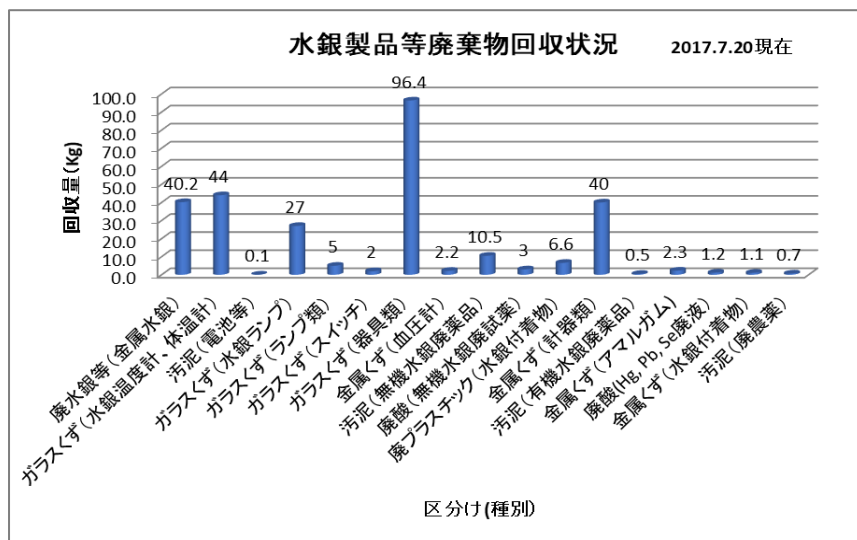
8月16日水俣条約発効前に水銀製品等の回収ができたことは大変良かったと考えている。今回回収できなかった製品は実験等で使用中の物であり、適正な貯蔵が必要な水銀対象物質は1kg以下となった。今後、残存水銀類については、管理方法等を検討して行きたいと考えている。



廃試薬の回収の様子

この報告は7月19日(水)神戸大学で開催された大学等環境安全協議会実務者連絡会で報告した。本学の他、筑波大学、熊本大学、琉球大学、静岡大学、鹿児島大学からも報告があり、法改正に伴う情報交換を行うことができ、今後の管理に参考になった。今年10月にも法改正があり、それに応じた対応が求められる。

(文責：安全衛生委員会 木間)



平成29年度 技術部ニューフェイス紹介



機器分析部門
高山 千晶

今まで学んできたことを生かして頑張ります。よろしくお願ひ致します。



機器分析部門
西脇 拓哉

何事も前のめりに取り組みたいと思いますので、よろしくお願ひ致します。



機械センター部門
三ツ木 寛尚

自分自身の工学知識を日々広げていき、大学に貢献できるよう頑張ります。